

▼葛飾区の人口（各年12月現在、単位：人）

	令和元年	令和6年	増加数	増加率
総数	464,667	470,284	5,617	1.2%
20-39歳	115,822	121,592	5,770	5.0%

日本経済新聞社による「働き子育てしやすい街ランキング」では令和元年に全国総合1位となったほか、令和3年度には保育所の待機児童ゼロを達成、令和5年度には学校給食費の完全無償化を行いました。

このような着実な取り組みにより、本区の魅力は確実に高まり、子育て世代を含めた若年層を引き付ける結果になったと考えております。

昨年、葛飾区の人口は、初めて47万人を突破いたしました。全国的に人口減少が進む中、コロナ禍による一時的な減少はあったものの、この間、持続的に本区の人口は増加してきました。

15歳から64歳の「生産年齢人口」と言われる働き盛りの年齢層が増えており、20歳から39歳の若年層は5年前と比較すると、5,800人あまり増えています。地方自治体が持続的に発展していくには、子供から高齢者まで、地域社会を支える人材がバランスよく住み集うことが理想であり、そのためには、人口規模を維持することが不可欠です。

私は、「子育て支援・教育の充実」を区政運営の最重要課題として位置づけ、この間、国や東京都などに先駆け、大胆に取り組んでまいりました。

▼若年世代の人口増が活気を生む



葛飾区長
青木かつのり

子育てするなら「かつしか」で 子育て支援・教育のさらなる充実

第18回 葛飾区世論調査（令和6年度実施）

- ◆今後も葛飾区に**住み続けたい** **84.4%**
- ◆葛飾区に**愛着をもっている** **75.1%**

第1回 子ども世論調査（令和6年度実施）

- ◆葛飾区が**好き** **80.9%**

また、最新の区世論調査では、8割を超える区民が、葛飾区に住み続けたいと回答しております。

こうした傾向を今後も維持すること、若い人たちが本区の未来を支え、さらにそこで生まれた子供たちが地域に愛着を抱き、子供から高齢者まで皆が住んでよかったと思える「ふるさと葛飾」が実現するよう、今後も全力で取り組んでまいります。

▼修学旅行費・副教材費の無償化

国立社会保障・人口問題研究所の出生動向基本調査（令和3年実施）によれば、夫婦が理想の子の数を持たない理由として、5割以上が「子育て・教育にかかる経済的負担」を挙げています。民間の試算では、教育にかかる費用が、幼稚園から大学まですべて公立の場合でも800万円以上、すべて私立では2,000万円を超えるといわれています。

こうした現状を踏まえ、私は義務教育にかかる費用はできる限り保護者の負担を軽減し、ゆとりを持って子育てできる環境を整えたいと考え、学校給食費の無償化を実施しました。東京都もこれを後押しするため、財源の補助を実施するようになりました。

さらに、令和7年度からは、23区で初めて、中学3年生を対象にした「修学旅行費」や中学2年生や小学5・6年生を対象とした「移動教室等費」を無償化するとともに、子供たちが使うテストやドリルなどの「副教材費」の無償化にも取り組んでまいります。

子供から高齢者まで 誰もがスポーツに親しめる葛飾

▼皆がスポーツに親しめる環境づくり

昨夏、フランスのパリで開催されたオリンピック・パラリンピックでは、様々な種目で多くの日本人選手が活躍しました。若手からベテランに至るまで、選手たちの日夜続けた並々ならぬ努力と挑戦の成果を、私たちは手に汗握りながら観戦しました。

スポーツには様々な楽しみ方があり、競技を観戦することや実際にプレーすること、趣味や健康のため、あるいは仲間との交流のため、自分の年齢や技術に応じて楽しむなど、多面的な効用があります。

私は、区民の多様なスポーツへの楽しみ方や関わり方をさらに充実させ、あらゆる年代の区民がスポーツに親しみ、日常生活の中に運動習慣を取り入れる環境を整備するため、ハード・ソフト両面からスポーツ活動の推進に取り組んでまいりました。東京五輪で注目されたスポーツクライミングやスケートボードなどの新競技にも対応できるよう、最近整備した施設やこれからの取り組みの一部をご紹介します。

- ▼小菅西公園スケートボード場（令和7年予定）
- ▼都立水元公園スケートボード広場（検討中）



▼スポーツクライミングセンター
（令和2年）



▼暫定活用中の東新小岩運動場（旧私学事業団総合運動場）（令和6年）

- ▼新小岩公園再整備
（スケートボードエリア・3×3コート）
（検討中）

このほかにも、高齢者向けに、公園にある運動器具を使用して指導員がお手伝する「うしろ室」も開催しています。

健康アプリでポイント活 モンチャレと歩こう （モンチャレ）開始

▼楽しく歩いてポイントが貯まる

普段働いていて忙しいなど、様々な理由で健康づくりに取り組めない、あるいは続かない、という現役世代の方も多いかと思えます。

そこで区では、昨年10月から、スマートフォンアプリを活用した健康事業を進めています。その名も通称「モンチャレ」です。

毎日の歩数や食事をスマホの専用アプリで記録すると、ポイントが貯まり、貯まったポイントは「かつしかPAY」に交換し（1ポイント11円）、区内の店舗で買い物に使うことができます。

このほか、毎日の歩数ランキングや食事記録でキャラクターを育成するなど、ゲーム感覚で気軽に健康づくりに取り組めます。歩数ランキングの上位には、厚生労働省が推奨する1日8,000歩を大きく上回る、1日3万歩を超える強者もいます。皆さんもぜひ、チャレンジしてみてください。詳しくはモンチャレ公式サイトをご覧ください。

QRコードはこちら



【問い合わせ先】葛飾区モンチャレコールセンター
電話 0120-836-856

友好都市との交流事業（マレーシア・ペナン州／ウィーン市フロリズドルフ区）

【 マレーシア・ペナン州 区長・議長訪問 】

マレーシア・ペナン州との友好交流は、1987年の青少年派遣から始まりました。昨年10月に区議会議長とともにペナン州を訪問し、マレーシア青年クラブ連合（MAYC）ペナン支部と「友好交流に関する確認書」の調印式を行いました。このほか、ペナン州第2副首相大臣・州議会議員や在ペナン日本国総領事館へ表敬訪問を行うとともに、多民族・多宗教国家であるマレーシアの現地民間企業を視察するなど、多文化共生を進めている本区にとり、大変参考になる視察となりました。



▼MAYCとの調印式



▼ペナン州第2副首相大臣と



▼現地民間企業視察

【 ウィーン市フロリズドルフ区 訪問団受入れ 】

ウィーン市フロリズドルフ区とは、1987年に友好都市提携をして以来、相互交流を深めてきました。昨年11月にはフロリズドルフ区政府訪問団が来日しました。パパイ区長をはじめ区議会議長など7名が表敬訪問し、区・区議会合同で歓待しました。



▼表敬訪問の様子

物価高騰などへの区の緊急支援の取組

◆補正予算で物価高騰などに対応（これまでの取組を含む）

①消費喚起のためのプレミアム付商品券などの発行

・プレミアム率20%の商品券追加発行（10万セット）

・プレミアム率20%のかつしかPAY（デジタル商品券）発行

・最大15%還元のカヤッシュレス決済ポイント還元事業

使用期間等いずれも1月末まで

②個人事業主・法人への支援金支給

物価高騰等へ対応するため、①個人事業主113万円、

②法人115万円を支給。申請期間12月～3月末

③介護や子育て施設等への区独自助成

介護施設や介護サービス事業所、幼稚園等や学童クラブに、光

熱費や食料費、燃料費等を助成。補助対象期間110月～3月

④低所得世帯重点支援給付

住民税均等割非課税世帯及び均等割のみ課税世帯に、

1世帯当たり3万円（児童1人あたり2万円加算）。

1月以降プッシュ型で支給。

青木かつのり 活動の記録 x（旧 Twitter）より



▼ 7.5 JR東日本・社長への要請活動 新金線旅客化を始め、JR金町駅の改良など区内交通環境の改善について要請



▼ 7.23 葛飾納涼花火大会 事故もなく、絶好の花火日和で、15,000発が夜空を彩り、多くの皆さまに楽しんでいただきました



▼ 8.1 非核平和祈念 献花・献水式 青戸平和公園にて広島・長崎にちなんだクスノキ、クロガネモチに献水および献花



▼ 9.19 東京MXテレビ出演 堀潤モーニングFLAGに出演し、修学旅行費の無償化や教育のあり方について議論



▼ 10.12 荒川放水路通水100周年記念式典 国土交通省や流域住民による「荒川放水路サミット」に出席



▼ 11.8 自治功労者表彰式 自治行政に功績顕著な12人に特別表彰を、地域振興等に貢献した95人に自治功労者表彰



▼ 11.22 南葛SCウイングス、なでしこリーグ2部昇格 南葛SC代表でキャプテン翼の原作者・高橋陽一先生と選手たち



▼ 12.8 中川かわまちづくり記念式典 中川を水辺に親しめる河川空間へ、沿川町会や商店街等の皆様と進めてまいります

青木かつのり「X」（旧ツイッター）



右のQRコードを読み取っていただくと、青木かつのりのX（旧ツイッター）を閲覧することができます。

